

平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	早稲田大学	職名	非常勤講師	助成金額	300,000 円
氏名	利根川由奈	メール アドレス	yuunatonegawa@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
20 世紀ベルギーの芸術と芸術政策における植民地主義の反省 —ブリュッセル王宮《歓喜の天国》を参照点として—					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究の目的は、ブリュッセル王宮「鏡の間」に設置された天井画《歓喜の天国》（2002 年）【図 1】について、植民地主義の反省を示すための芸術政策に基づいて制作された作品であるとの仮説を立て、この作品に付された役割を明らかにすることである。目的を果たすため、申請者は2017年6月にベルギーへ赴き、現地調査を行った。助成金の使途は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡航費（東京—ブリュッセル） ¥180,000- ・ヨーロッパ内旅費 ¥10,000- ・滞在費 ¥70,000- ・資料購入費 ¥30,000- ・雑費（美術館入館料など） ¥10,000- <p>ベルギーでは、ブリュッセル王宮、王立美術館アーカイヴ、バルビユー美術館アーカイヴ、ゲント市立現代美術館アーカイヴ、アントワープ現代美術館アーカイヴ、ノートルダム大聖堂に赴き、資料収集と作品調査を行った。現地調査の課題として、研究計画に記載した(1)《歓喜の王国》の制作背景調査、(2)《歓喜の王国》の造形調査、を据えた。以下に、各項目の調査において得た成果を記す。</p> <p>(1)・ブリュッセル王宮の迎賓館としての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリュッセル王宮設立の経緯 ・ブリュッセル王宮「鏡の間」の役割 ・《歓喜の王国》制作の背景 <p>(2)・天井画とシャンデリアを覆う玉虫がどのように見えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鏡の間」内の天井画・シャンデリアと他の室内装飾の比較 ・劣化するだろう玉虫を公共事業作品に用いた理由の検討 ・ファーブルにとって玉虫という素材の意義 ・ブロンズを使用した公共事業作品《十字架を持つ男》【図 2】との造形的比較 <p>以上のように、多くの成果を得たものの、ファーブルが《歓喜の王国》制作を託された理由の解明には至らなかった。そのため、今後も引き続き検討を行う。</p>					
 <p>【図 1】 ヤン・ファーブル 《歓喜の天国》（2002 年）</p>					
 <p>【図 2】 ヤン・ファーブル 《十字架を持つ男》（2017 年）</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
利根川由奈	ヤン・ファーブル《歓喜の王国》 の公共事業作品としての意義	『比較文化研究』 (比較文化学会)	平成 30 年 1 月 投稿予定		